

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成30年12月17日
第851号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1

TEL : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX : 4117

<http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail : skotoba@sado.ed.jp



今年どんなことに「ありがとう」の気持ちをもちましたか。私の一番は子どもたちへ「1年間、元気に教室にきてくれて『ありがとう』」です。楽しい時間をたくさん過ごすことができました。来年も楽しみです。皆様、良いお年をお迎えください。

主体性を育てる

佐渡特別支援学校
校長 齋藤 千賀子

校内研修で広島大学大学院教育学研究科准教授の竹林地毅（ちくりんじ たけし）先生からご指導いただく機会を得ました。先生は、子どもが主体的に学習している姿とは、考えている（迷っている）、判断している（決めている）、行動していることであり、授業で子どもが困っていると、教師はすぐに支援しなくてとは考えてしまいがちだが、困っているときは考えているときであると話されました。また、正しい、失敗しない行動や方法を効率的に身に付けることのみがよい学習のプロセスだと考えてきたのではないかというご指導に、自分のこれまでの指導を振り返り考えさせられました。先生が高等部を担任された時の校外学習での体験談は、ウイットに富んだ内容でした。しかし、その実践は、校外学習で常に教師が引率するのではなく、徐々に生徒の後を教師が動く、見守るという展開。生徒が計画し、実行の過程で失敗したり間違ったりしたことを乗り越えていくという展開でした。竹林地先生の「教えないとは、教えるべきこと・指導するべきことを吟味すること」という言葉は特に印象深いです。これは、通常の学級での指導でも大切なことであると思います。

子どもに向き合うことは、 自分自身に向き合うこと

高校卒業を目前にしたAさんは「自分は大人にいろいろと言われてきた。その時には理解できなかったり、反発したり、自分自身も訳が分からないから困っていた。分からないから言葉にできなかったし、聞かないでも思った。けれど、大人がどんな対応をしてくれても、その大人が本気で自分を思ってくれているかどうかだけは分かる。」と静かに語りました。

子どもたちを目の前に「やってほしい」「できるようになってほしい」「この先困らないよう」そんな私自身の気持ちが先に立ってしまうことがあります。そんな時程、子どもの気持ちに気付かず、待てなかったり、大人の枠を押しつけてしまったり失敗の連続です。混乱している子どもたちのいら立つ言葉を、言葉どおり聞き入れるのではなく、その子の本音はどこにあるのかを考えるゆとりをもちたいです。子どもたちに向き合う中で「自分は自分でいいんだ。自分にもいいところがある。自分にもできるかもしれない。自分は誰かにとって必要な存在だ。」という思いを子どもの中に育てていきたいです。（滝田）

親の会コーナー



会員の声 No.70

A. A (両津地区)

親バカかもしれないのですが、うちの子はすごく優しい子どもです。でも、あることがきっかけで、毎日、教室にはいけなくなっていました。いつもの笑顔が見られなくなり、体調まで崩れたりして、親としてはどう対処したらよいか分かりませんでした。先生方に相談したり、そして一番は、子ども自身がどうしたいのかを聞いたりしていました。

そのようなときに通級指導教室があることを知りました。初めは『どのようなものだろうか…』と思いましたが、始めてみると、子どもが少しずつ楽しみにするようになり、今では『笑顔』も出るようになりました。



お知らせコーナー



一品バザー(フリーマーケット)のお願い

2019年6月29日(土)に第2回学習会を行います。その際、一品バザーを行う予定です。(以前のお知らせから変更がありました)御家庭で使っていない品物がありましたら、御寄付をお願いいたします。収集期間より早めのお知らせにはなりますが、4月まで御家庭で保管をお願いします。期日が近づきましたら具体的に御案内いたします。

収集期間:2019年4月15日(月)~6月10日(月)

**収集する品物:贈答品等で未使用の物、未使用の日用品・衣類、
常温で保存可能な食料品、
クリーニング済みの衣類、手作りの小物、
本・おもちゃ類で痛みのないもの** 等



50周年記念事業<アトラクション>で 合唱を行います

2019年11月16日(土)の記念式典の中で、参加者で合唱をするアトラクションを計画しています。会場を温かい歌声でいっぱいにしましょう。御協力をお願いいたします。

曲:『世界に一つだけの花』



